

山口県の薬剤師確保対策

令和5年3月

山口県薬務課薬事班 主査 久保田 明子

目次

- 1 山口県の特徴
- 2 山口県薬剤師需給状況調査
- 3 山口県の今後の取組

1 山口県の特徴



©山口県

山口県のマスコットキャラクター ちよるる

山口県の特徴

○面積

6112.55km²

○人口

134.2万人（R2年10月、全国27位）

出典：R2年国勢調査

○高齢化率

35.0%（R3年、全国3位）

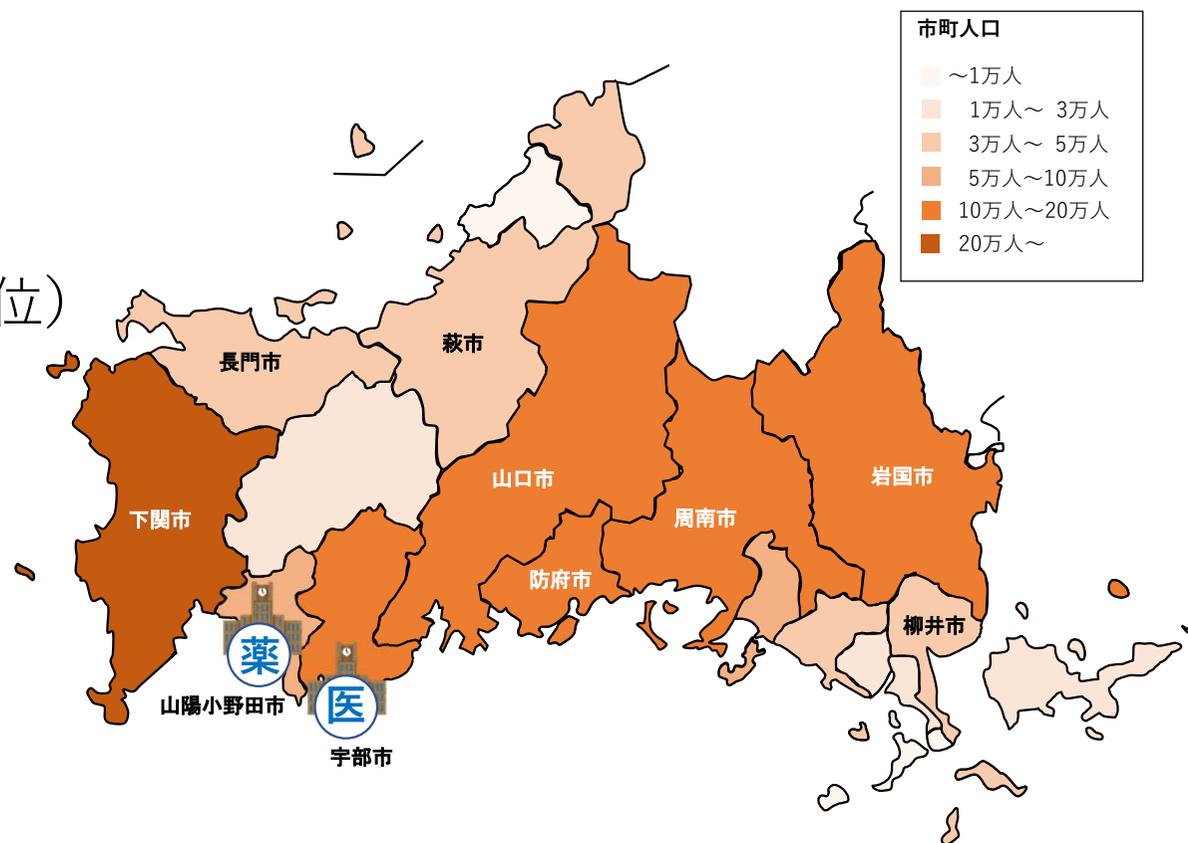
出典：R4年高齢社会白書

○大学（医薬系）

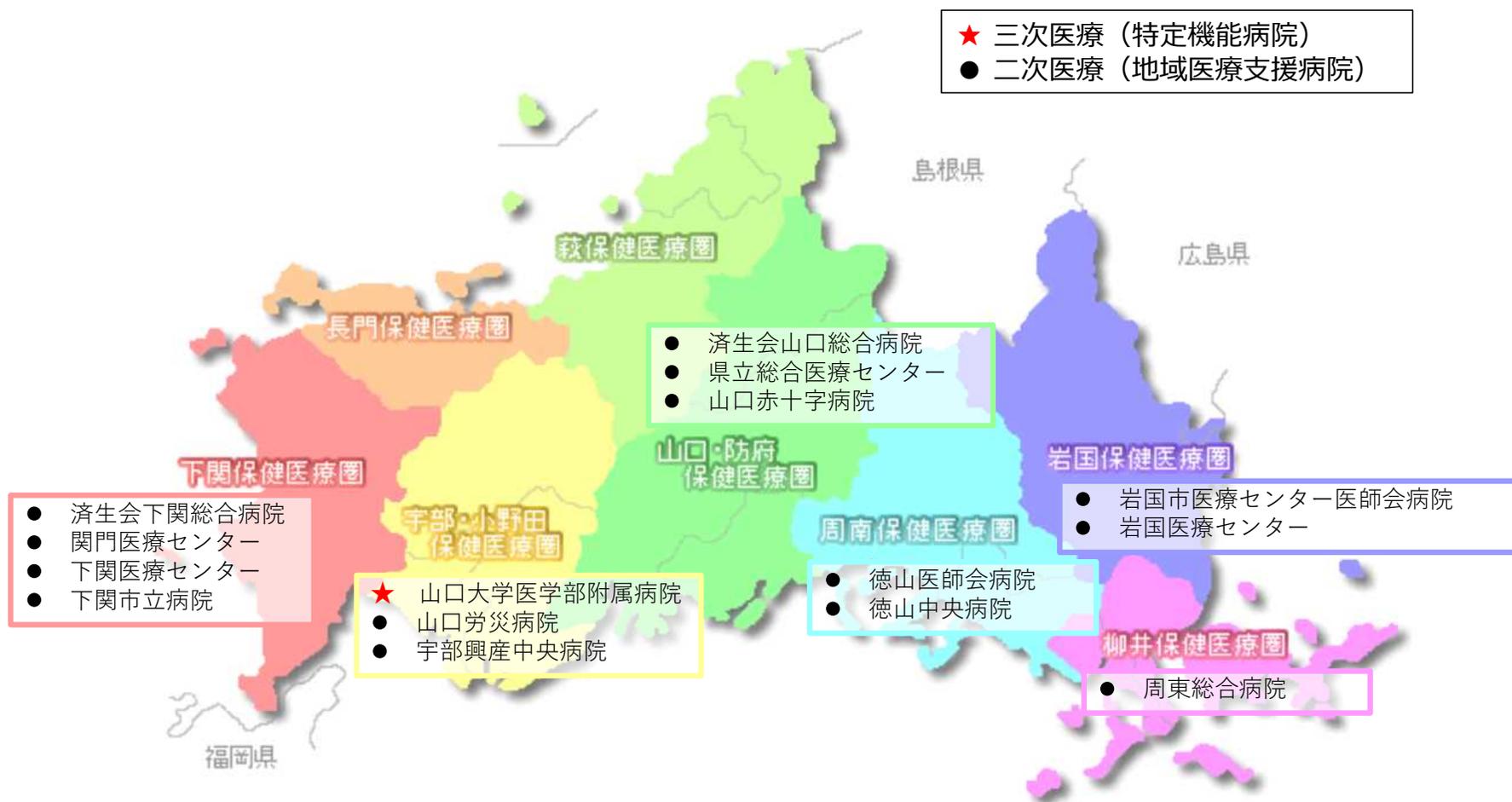
山口大学医学部（宇部市）

山口東京理科大学 **薬学部**（山陽小野田市）

→ 2018年開設（現在、第1期生が5年生）



山口県の医療圏マップ



出典：やまぐちドクターネットHP

山口県の薬剤師数

●現在の人口10万人当たりの薬剤師数は多いが・・・



●将来を担う若手薬剤師数は**減少傾向**

	薬局薬剤師		医療機関薬剤師	
	人数	人口10万人対	人数	人口10万人対
山口県	2,085	155.4	782	58.3
全国	188,982	149.8	61,603	48.8



出典：令和2年厚生労働省医師・歯科医師・薬剤師統計
人口は令和2年国勢調査による

県内の35歳未満薬剤師数の推移 (H10~R2) H10=100
出典：厚生労働省医師・歯科医師・薬剤師統計

これまでの取組

「地域で活躍する薬剤師」総合支援事業（R元年度～）

県内就職促進（山口県薬剤師会への補助事業）

- ・ 山口県の魅力や就職先の薬局・病院をPRすることで県内就職を促進
- ・ 学生時代から県内薬剤師と繋がりを持ち、信頼関係を構築



薬学的サイエンスカフェ*



合同企業説明会



オンライン就職説明会

* 県内薬剤師と薬学生が薬学や健康等テーマを決めて語り合う場を設定する取組

2 山口県薬剤師需給状況調査

調査の概要

○方法

山陽小野田市立山口東京理科大学に委託

○委託先・報告書執筆

山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部 下川 昌文教授

○実施年度

令和3年度（2021年度）

○目的

県内における2035年までの薬剤師の必要数を予測し、今後の事業展開にあたっての基礎データとする

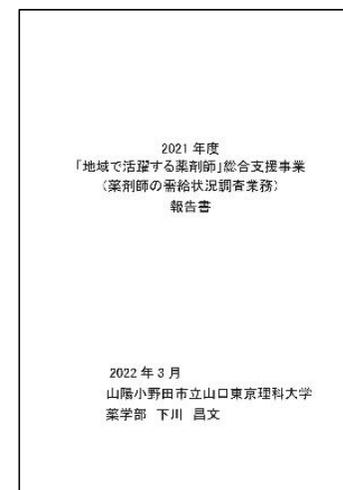
○調査項目、予測項目

（調査項目）需給動向把握のためのデータ収集・分析

県内の薬局・医療機関及び大学における現在および将来の薬剤師を対象としたアンケート調査

（予測項目）二次医療圏別の需給状況（充足率）の推測

各種業務に必要な薬剤師数（業務量）の推計



将来の薬剤師の**需要**をどのように推計した？

	使用したデータ	将来推計方法
薬局 	<ul style="list-style-type: none"> 処方箋枚数 (処方箋受取率 × 投薬対象者数) 薬局数 処方箋取扱のない薬局数 	<ul style="list-style-type: none"> ●薬機法（処方箋枚数）の員数による需要 ●居宅等における調剤を含めた需要 (過去の増加率から居宅調剤件数は、2035年に2020年の5倍となると仮定) ●投薬対象者数は、高齢化の影響を考慮
病院 	<ul style="list-style-type: none"> 病床の種類別の入院患者数 病院の外来院内処方数 病院数 	<ul style="list-style-type: none"> ●全国水準での入院患者に対する薬剤師の配置状況に基づく需要 ※全国水準は、入院患者に対する薬剤管理指導の頻度の増加に伴い経時的に変化すると仮定 ➤ 薬剤師1人（常勤換算）あたりの入院患者数 山口県34.3人(2017年) / 全国25.2人(2017年)
その他 (診療所、介護施設、製薬企業、大学、行政等)	<ul style="list-style-type: none"> ・現人数 	<ul style="list-style-type: none"> ●2035年まで需要は変化しないと仮定

将来の薬剤師の供給をどのように推計した？

薬剤師人数	使用したデータ
常勤換算人数	薬剤師届出数から以下を考慮して算出 <ul style="list-style-type: none"> ・ 常勤割合（非常勤割合） ・ 非常勤一人当たりの常勤換算人数 ・ 休業率
<div style="color: green; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">+</div> 要素 薬剤師免許新規取得者	24～29歳の薬剤師数について、全国値に占める山口県の割合を使用し、山口県内の新規就業者数を79人／年と推計※ （山口東京理科大学の影響として、+5人／年） ※ 推計値は、薬局・病院に対する薬剤師の異動についてのアンケート調査結果等から推定される数とほぼ一致
<div style="color: red; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">-</div> 要素 高齢のため、引退する方	70歳で基本的に引退 ただし、県内で130人程度が70代でも働いていると推計

現在と2035年の薬剤師の需給状況

現在

地域や業態間で不足・偏在

病院と薬局間、二次医療圏間の薬剤師の偏在を無視すれば、需給均衡

- ・ 薬局薬剤師：長門、萩は慢性的な不足。それ以外は充足又は均衡
- ・ 病院薬剤師：すべての二次医療圏で不足。特に、萩、柳井が著しく不足

将来予測

- ✓ 薬局での在宅医療への対応 ↑
- ✓ 病院での入院患者に対する薬剤管理指導件数 ↑



新たに薬剤師となる者と退職・死亡者の数との関係から
2025年頃から増加幅縮小、
2034年頃から横ばい又は減少 ↓

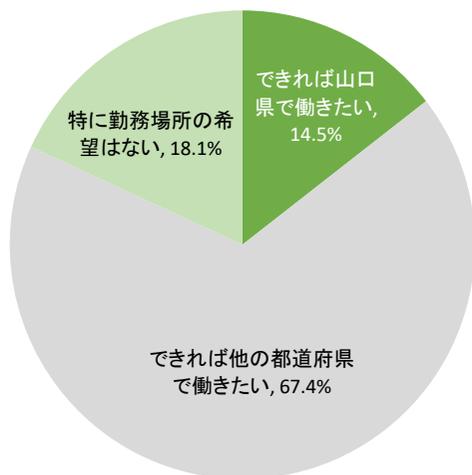
⇒ 本県における薬剤師不足の深刻化が予測
2035年時点で、250～400人が不足

山口東京理科大学薬学生アンケート

●県内薬学生アンケート (R3時点で3~4年生を対象とした調査、n=193)

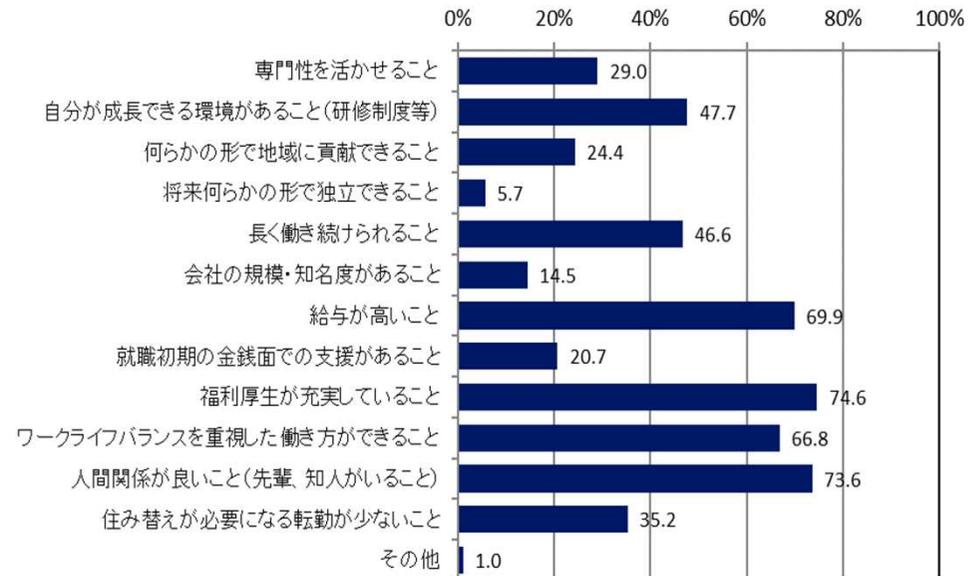
◆大学卒業後又は大学院修了後で働きたい地域は？

→できれば山口県で働きたい **14.5%**
 特に勤務先に希望は無い **18.1%** } 計 **32.6%**



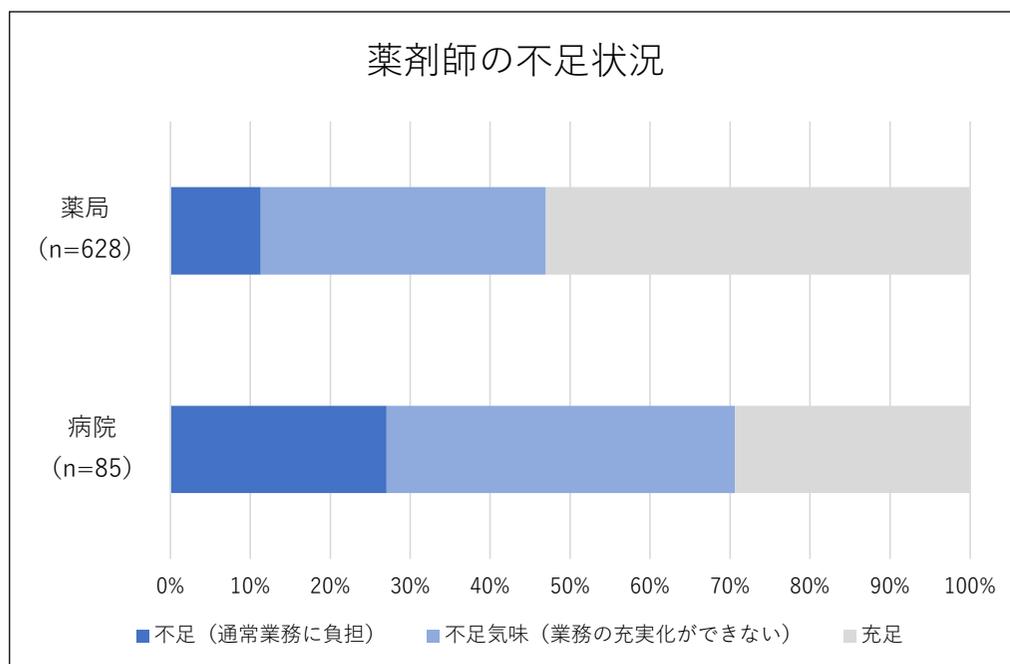
◆就職時に重視する点は？

福利厚生、人間関係、給与、
ワークライフバランス、
成長できる環境（研修制度）など



R4県内薬局・病院アンケートでも薬剤師不足が鮮明

●県内薬局・病院アンケート



薬局・病院の**多くで不足又は不足気味**と回答
病院は、**高度急性期・急性期病院**で不足傾向

●アンケート自由回答・ヒアリング意見

- ・ 県主催の**マッチング支援**等が必要
- ・ 薬剤師の**不足地域への薬剤師派遣**が必要
- ・ 県内出身者版就職サイトを作り、薬学生に登録してもらい、**県内の求人情報を検索**できるとよい
- ・ 現在各病院が独自で求人をかけており、**求職者が病院ホームページを探して応募しているこの状況は特に中小病院にとって不利**
- ・ 求人窓口になっていただきたい。是非、**就職説明会の開催や専門窓口の設置**をお願いします
- ・ 民間の紹介業者に高い手数料を払い、斡旋してもらっているが、働き方など**施設と働き手のミスマッチ**により人材の質や定着率に課題
- ・ **奨学金の返還補助**は特にやってほしい
- ・ 奨学金返還補助制度がある地域に就職し、制度終了後も**定住する**ケースもある

3 山口県の今後の取組

薬剤師不足・偏在の4課題に対し、事業を展開

課題	方向性	事業
① 各主体で薬剤師の県内就職に取り組んでいるが、 十分な数の薬剤師が確保できていない	○ 県薬・県病薬・大学・行政が連携し 、以下の取組を実施 ・薬学生・薬剤師の県内就職促進 ・就労希望薬剤師の復職支援 ・派遣・斡旋の課題と対応を検討	薬剤師確保検討チームの設置 (薬剤師確保に向けた調査・検討)
② 民間の派遣・斡旋は高額である上、 施設と働き手のマッチングに課題	○施設と働き手のミスマッチ解消のため、インターネット上で 施設の特徴や魅力をアピール ○病院・薬局薬剤師と薬学生・就労希望薬剤師の 交流促進	薬剤師のマッチング・交流支援
③ 奨学金返済 を理由に就職先を選定するケースもある	○ 経済的なインセンティブの付与	奨学金返還補助制度の創設
④ 地方の研修機会が少ないことによる 成長機会を失う不安 への対応が必要	○認定薬剤師などの取得につながるよう、 就職初期（1～3年目）の研修プログラムの作成・展開	県共通の研修プログラムの作成

就職前から定着後まで一貫した薬剤師確保対策を展開

新 令和5年度地域医療を担う若手薬剤師確保・育成事業

薬剤師確保支援体制を構築

- 薬剤師確保検討チームの設置
- 薬剤師の確保に向けた調査・検討
- 山口県における薬剤師の派遣・斡旋の手法や課題への対応整理

① マッチング・交流を支援

- マッチング・交流プラットフォームの整備
- 相談支援体制の整備（山口県薬剤師会内に専門相談員の配置）
- 大学のカリキュラムと連携し、薬学生と薬剤師の関係づくりを促進

② 経済面を支援

- 急性期等の病院及びへき地薬局に就職する薬学生の奨学金返還を補助

③ スキルアップを支援

- 県共通の人材育成プログラムの作成・展開（初期研修）
- 在宅や情報連携に関する研修の実施
- 大学と連携した復職希望者への研修の実施検討

入学



就職活動前



就職活動期

就職



定着・資質向上

薬剤師確保対策に向け、県内関係者が連携

薬剤師確保検討チーム

県薬剤師会、県病院薬剤師会、山口東京理科大学、県

<調査内容>

- ・ 県内病院・薬局の充足状況
- ・ 新卒薬剤師の県内就職の動向
- ・ 薬学生の県内就職に係る意向・動向 等

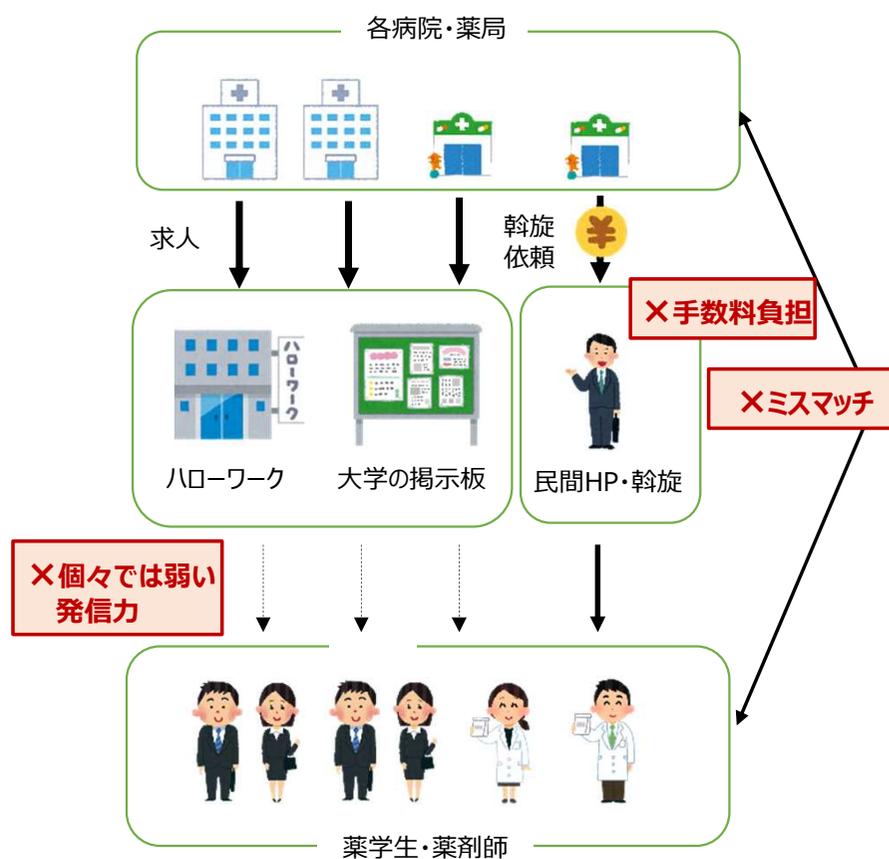
<検討事項>

- ・ 薬学生への効果的なアプローチ方法
- ・ 研修機会の見える化や研修支援の具体策
- ・ 調査結果や事業成果を踏まえた支援策

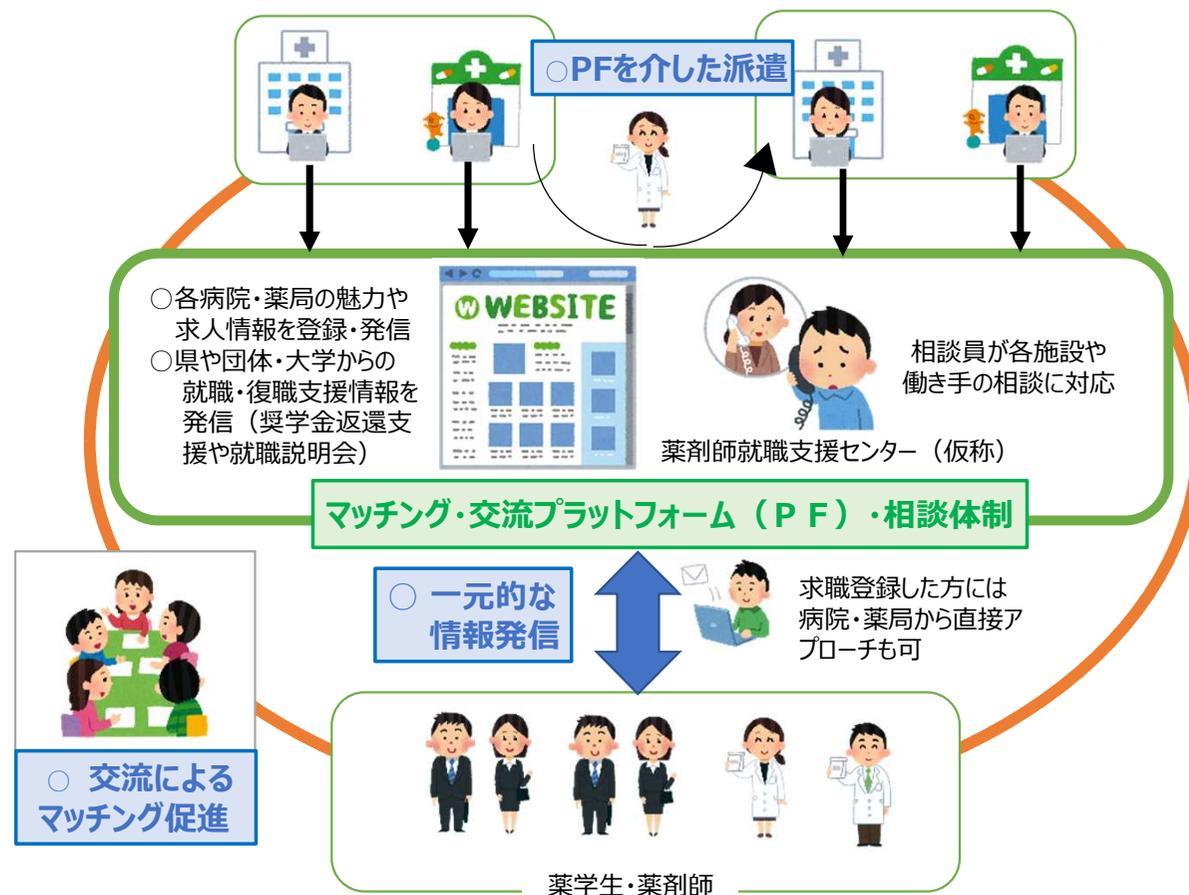


プラットフォームによる一元的な情報発信

■現状



■今後の展開 (12月頃開設予定)

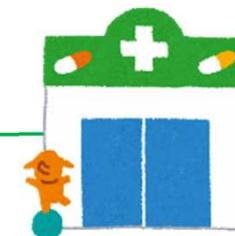


県内に就職する薬学生の奨学金返還を支援

○特に薬剤師不足が深刻な急性期・公的等の病院やへき地薬局において、経済的なインセンティブを付与するため、**奨学金返還補助制度を創設**

	 病 院	 薬 局
対象施設	<ul style="list-style-type: none"> ●高度急性期・急性期機能病院 ●公的医療機関等の病院 	<ul style="list-style-type: none"> ●へき地に立地する薬局
対 象 者	薬学生の5～6年生	
補 助 内 容	最大 144 万円（補助対象期間5年間） ＊対象施設へ就職した場合、薬学部5～6年生の2年間の奨学金返還分	
募 集 人 数	5 名	2 名
備 考	県が定める研修プログラムを受講	薬局が1／2を出捐

県共通の人材育成プログラムの作成・展開



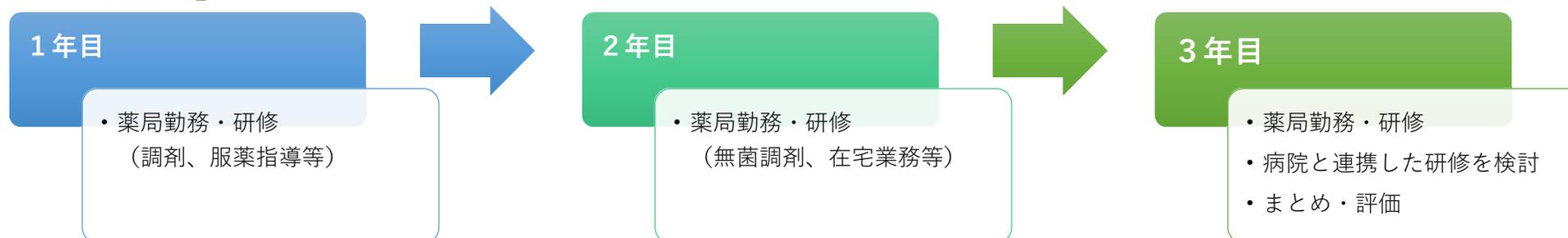
◆プログラムのイメージ

研修期間：3年程度

研修内容：調剤をはじめとした様々な業務（地域包括ケアシステムの構築に向け在宅等の業務を組み込む）

ポイント：研修目的に応じて他の薬局・病院、関係機関、行政機関と連携

【プログラム実施例】



○薬局用務例

処方せん調剤 服薬指導 無菌調剤手法 吸入指導
薬や健康についての相談対応 在宅業務 緩和ケア
医療機関や施設と連携 OTC医薬品などの販売

○病院用務例

調剤業務 製剤業務 注射調剤業務 注射薬混合調製業務
外来化学療法室 救命救急業務 医薬品情報業務 治験業務
チーム医療 病棟薬剤業務 疑義照会とプレアボイド

まとめ

R3

- ・ データにより薬剤師不足状況を示すため、2035年までの需給状況調査を実施
- 

R4

- ・ 薬局・病院のアンケートにより、現状を把握
 - ・ 県内薬学生のニーズを分析し、施策に反映
- 

R5～

- ・ 県内薬学生が卒業する機を捉え、薬剤師確保に向けた施策を展開
～県薬・県病薬・大学・行政が一丸となって取組～



ご清聴ありがとうございました